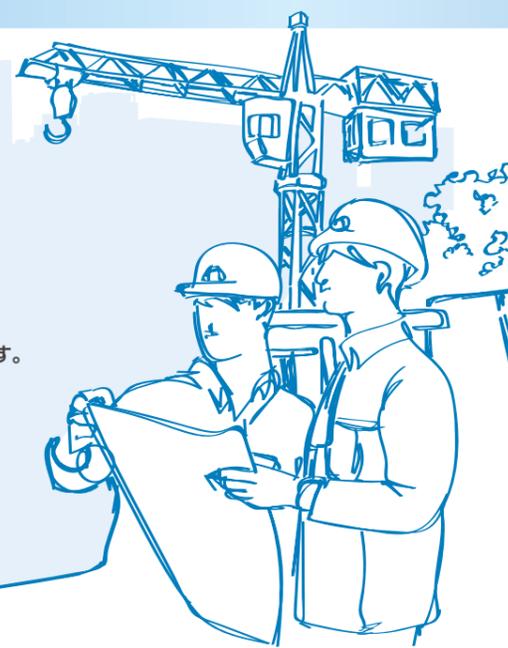


安全・品質・調達の取り組み

重点項目 ●労働安全衛生 ●品質 ●お客さま ●調達

「お客さまの満足」のためには、優れた建造物・建設サービスの提供が必要だと考えています。この「優れた建造物・建設サービス」は、安全な施工や品質の確保など、企業として確実に守らなければならない根本的なものという意味だけではなく、社会課題に配慮した先進的な取り組みの意味も含んだ包括的なものです。社会から求められる要望に対して、誠実に、かつ確実に対応できるよう、本支店や作業所など全社が一体となって取り組んでいます。



担当役員のコメント



安全管掌役員
足立 宏美

今年度は、東京オリンピック・パラリンピック関連工事の最終段階を迎えると同時に、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」や「老朽インフラの維持管理・更新」工事の全国的な増加を予測しています。一方、建設技能者不足の深刻化と高齢化、外国人労働者の対応など、労働災害の発生が懸念される状況下にあると認識しています。

当社では、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、現場での安全に対するリスクアセスメントを実施しています。加えて今年度は「災害のない現場の実現」に向け、「全役員・社員、協力会社社員の安全意識のさらなる向上」と「安全・環境にかかわる技術および設備への積極的投資」を重点施策と定めました。特に後者は、ICTやAIを用いた機材や技術の積極的な活用によりヒューマンエラーを回避し、従来では困難であった、より高い安全化を実現します。

重大災害は、これまで積み重ねてきた社会の信頼を一時にして失墜し、経営にも重大な影響を与えます。「安全は企業活動の大前提」です。私たちは「MAEDA安全方針」のもと、引き続き「人命の尊さ、安全の重要性」の認識強化とその実践に努めてまいります。

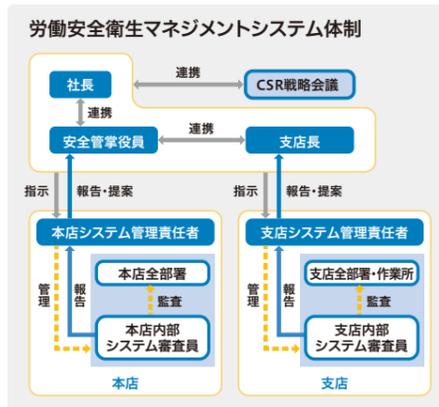
マネジメント

当社は、過去の重大災害の反省から安全衛生の基本的な考え方として「MAEDA安全方針」を定め、さらには災害の低減と健康増進および快適な職場づくりのため、2001年に「労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)」を導入しました。

日々の安全管理活動として、年度安全目標ならびに重点施策を定め災害防止活動を推進しています。

さらに、安全スローガンを定め、本社、支店、作業所、安全協会、職長会、建設技能者が一体となって不安全行動を注意しあい、災害を未然に防止できる作業環境を推進しています。

当社では、施工に関する安全衛生の責任者として安全管掌役員を任命しています。



〈MAEDA安全方針〉安全は、会社の良心である。

2019年度安全目標
1. 重大災害ゼロ
2. 度数率0.7以下(施工部門)・0.6以下(全社)

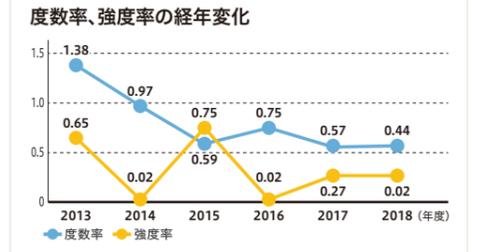
2019年度重点施策
1. 全役員・協力会社社員の安全意識のさらなる向上
2. 安全・環境に関わる技術および設備への積極的投資向上

安全スローガン 『見逃すな危険の芽 心をこめて声をだせ 自分と仲間を守るため』

【スローガンに込めた想い】
災害を防止するために重要なことは、社員および協力会社責任者等幹部が、安全に対し強い信念を持ち、自分が「率先躬行」して現場を引っ張っていくことである。そして、同じ職場で働く仲間やその家族を思い「危ないよ!」と声をかけ厳しく注意することが本当のやさしさである。

労働安全衛生

2018年度の度数率は前年度より向上し0.44でした。類似災害防止として、ICTなどを活用した重機・車両周りの立ち入り禁止措置の改善、作業手順の周知徹底、効果的な水平展開に重点を置くとともに、教育にも注力し安全な職場環境の実現に努めます。また、万が一、重大災害が発生した場合には、本支店の主管部長・安全部長と作業所が一体となって事故調査を行い、再発防止対策を検討・実施し、必要に応じて社内規則の変更や通達類の発信を行うことにより、全社一体となった同種災害の防止に取り組んでいます。



度数率: (休業4日以上の死傷者数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000,000
強度率: (総労働損失日数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000
対象者: 作業所における全従事者+本支店内の社員

品質向上と顧客満足向上に向けた取り組み

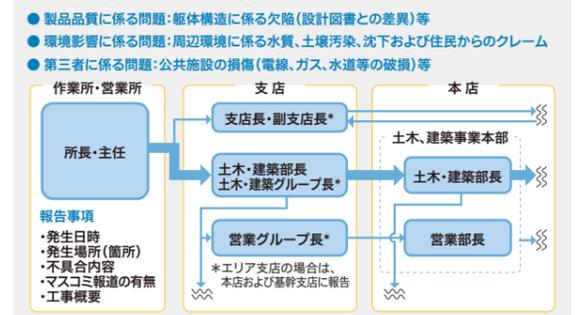
方針

当社は、1983年に導入した総合的品質管理(TQM)をもとに、国際標準規格(ISO)に適合した品質マネジメントシステム(QMS)を構築し、ものづくりのしきみの維持と改善に取り組んでいます。品質方針の基本理念には、創業理念「良い仕事をし顧客の信頼を得る」を掲げ、発注者をはじめ、建造物のエンドユーザーや地域社会の皆さまなど、すべてのステークホルダーを「お客さま(顧客)」としてとらえ、それぞれの立場で「お客さま満足」の実現をめざしています。2017年度からは環境マネジメントシステム(EMS)と統合した「品質・環境規程」を制定し、運用しています。

マネジメント

当社の品質マネジメントは土木事業本部長、建築事業本部長をトップに、品質マネジメントシステム管理責任者として土木部長、建築部長を任命し運営しています。施工に関する不具合(品質・環境・安全)については、事後の対応によってリスクが大きく変わってくるため、当社では右図の「施工不具合対応フロー」を2007年に制定し、重大不具合への対応を定めています。その他の不具合は「不具合・是正DB」にて各作業所から情報が報告され、土木部・建築部で毎月、内容の精査・検討を行い、結果を再発防止策として水平展開しています。

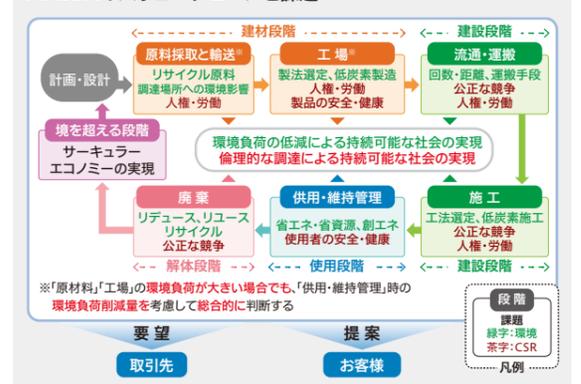
施工不具合対応フロー(一部抜粋)



調達に関する取り組み

建設事業で調達する製品は大量かつ多種多様であり、グローバル化により原料の採取地や加工場所も国内外の多岐にわたります。そこで、調達分野の方針として「公正で自由な競争と適正な取引に努める」を掲げています。これは、地球環境や地域に与える影響の大きさを勘案し、価格や品質だけでなく、環境課題や社会からの要請への取り組みも選定の項目とすることにより、バリューチェーンでの環境や社会に関する課題解決に向けた価値創出の取り組みを行うためです。調達に関する段階としては上図のようなものがあります。株主や社員はもちろん、建設物のユーザー、原料採取や工場、建設現場で働かれている方、近隣地域の方などに加え、温暖化や生物多様性、循環・サーキュラーエコノミーなどに関連する地球や、未来もステークホルダーととらえているのが当社の特徴です。展開地域は売上高のセグメント別内訳をご確認ください(→P.10を参照)。特に当社が重要と考える製品、サービスは、「供用・維持管理」での貢献から再生可能エネルギー製品、「原料の採取と輸送」での影響の大きさをから木材製品、同じく「原料の採取と輸送」「工場」「流通・運搬」の影響の大きさをから第三者認証製品があげられます。当社が年間に調達している製品やサービスは2,989億円(2018年度)あり、この分野で取り組むことにより、市場のシフトチェンジに貢献していきます。

MAEDAのバリューチェーンと課題



上記以外のトピックについてはこちら ▶ 安全成績▶データブックP.7